



◇今回は、名古屋市消防局の多田涼耶さんのレポートです！

平成26年度卒業生の多田涼耶です。卒業後は名古屋市消防局に就職し、現在は中村消防署で勤務しています（下写真）。今回、この様な貴重な機会を頂き身に余る思いですが、皆さんが将来について考えた時にこのレポートが少しでも参考になれば幸いです。

【関高生らしからぬ高校生活! ?】

私は勉強が苦手で嫌いでした。日々の授業はついていだけで精一杯、テストも思い通りの結果が出せずに悩んでいました。しかし、部活動のバレーボールをやっている時だけはそんな悩みも忘れられるほど楽しくて熱中していました。

私にとって部活動は高校生活の中心でいつもバレーボールのことばかり考えていました。部活をするために勉強を頑張るという生活を送っていたのです。いえ、「楽しみがあったからこそ本業を頑張れた。」と言った方が正しいかもしれません。

皆さんも、どんなことでもいいので、自分の好きなことを見つけられるとメリハリが出来て充実した生活が送れると思います。



憧れのユニフォームに身を包んで（写真右）

私がそこまで部活動に打ち込めた理由は、生徒が自ら考え自発的に行動するという生徒主体の環境であったからです。顧問の先生から練習のスケジュールや内容、練習試合の相手や大会出場メンバー等、部に関わる大半のことがらを一任して頂いていたのです。

部長であった私は、部員たちに支えてもらいながら、最後まで役目を全うすることができました。時には意見が分かれて対立し、試合に勝てない日々が続くこともありましたが、そんな壁を何度もともに乗り越えてきた仲間たちとその思い出は、私の誇りであり財産です。就職先で出会った同僚は年齢も様々ですし、お互いの仕事が忙しくて深く関わりを持てる機

会が減ります。やはり本当の意味での友人や仲間は、学校生活の中でしかできないものであることを卒業してから身をもって感じました。



最後のインターハイ予選

【名古屋市消防局での日々】～消防学校への入校～

消防官といえばどのようなイメージでしょうか。消防車で出動する姿を思い浮かべる方が多いかと思います。実際には火災現場での消火活動のほかにも、救急車で怪我人や急病人を病院へ搬送したり、台風や震災等大規模な災害が発生した際には人命救助活動を行います。それ以外にも建物内に設置が義務付けられている消防設備の点検や指導等、業務内容は多岐に渡ります。しかし、右も左も分からない新人の消防官がいきなり火災現場へ出動したり、危険な現場から人を助けることは困難であり、自らの命が危険にさらされてしまいます。

そのため、採用後は初任科生として消防学校へ入校し、半年間の基本教育を受けます。私も83名の同期生とともに、全寮制の学校生活を送りました。1日の流れは、朝7時の起床点呼から始まり、午前には消防法等の座学を受講、午後には消防訓練を実施します。夕食後の自由時間にはそれぞれ自習や自主訓練に励みます。入浴し、22時の日夕点呼を終えると23時に消灯と規則正しく決められた生活です。

消防学校は今まで私たちが通ってきた学校とは大きく異なる点があります。「お前達はお金をもらって学ばせていただくんだ。そのことを決して忘れるな」。入校初日の教官からの言葉です。当然ながら勉強することが仕事であり、それに見合う結果を出す必要があります。服装等の細かな身だしなみから消防官としての心構えまで、消防の知識技術はもちろん、公務員としてまた、一人社会人としての礼儀や規律を学びました。

【消防署への配属】

消防学校での教育を終えると実務科として市内の各消防署へ配属されます。次は半年間、

実際に消防署において災害出動要領や各種業務内容等について学びます。私は中村消防署消防第一課に配属され、研修をすることになりました。

皆さんもご存知の通り、消防署は 24 時間勤務です。名古屋市消防局における勤務体制の一例を簡単に説明しますと、まず朝の 8 時 45 分に消防第一課が勤務を開始します。翌日の朝 8 時 45 分になると消防第二課と勤務を交代し、24 時間後に再び一課が二課と交代します。これを繰り返し行うことで常にどのような災害等にも対応できる警防体制を整えているのです。（※あくまで一例であり、都道府県や市町村によって勤務体制は様々です。）

研修開始当初は消防学校とは違った緊張感があり、勤務体制に慣れることにも苦労しました。また、印象的な出来事は消防車で初出動をした時のことです。「火災指令。火災指令。中村区〇〇町△△丁目××番地 中村 1 出動せよ。」食事中のことでした。そんなこともおかまいなしに指令は流れます。急いで防火衣に着替えて車両に乗り込み出動しました。（防火衣：耐熱性のある服装。消防隊が火災出動時に装着するもの。）

結局、火災ではなく大事にはいたらなかったのですが、サイレンを鳴らして緊急走行で現場に向かう消防車の中に自分が乗っていることに改めて、消防官になれたのだと強く実感し、鳥肌が立ったのを今でもはっきりと覚えています。



職場の同僚と（二列目左から一人目）

【自分の意思で道を切り開く】

さて、質問です。皆さんはどうして関高校に入学したのでしょうか。他にも数多くの選択肢があったにも関わらず、関高校を選んだのはなぜですか？ 将来の夢を叶えるため、文武両道な学校生活を送りたい等々、様々な理由があると思います。では、その決断に後悔はありませんか？ 自信を持ってこれで良かったと言えますか？ いつの日か皆さんも関高校を卒業し、新たなステージへ進む日が来ます。希望の進路や志望校が決まっている人もそうでない人も関高校に進学を決めたあの日と同じように自分の意思で決意をしなければならない日がやって来るのです。その事実と正々堂々向き合ってみましょう。

自分から興味のある大学や学部について調べる。オープンキャンパスに参加して実際に足を運んでみる。先生や先輩に質問する。もう少し自分のアンテナを広げるだけで思いもよらない人物や物事との出会いが待っているかもしれません。

その結果、私の場合は消防官になるという道を選びました。平成 26 年度卒業生の中で、

センター試験も大学受験もすることなく就職をしたのは私だけでした。この決断をするにあたって、やはり迷いや不安はありましたし、いつもいろいろな人に相談して、感謝してもしきれないほどの力を貸していただきました。

しかし、最後の決め手となったものは、少しでも早く一人前の消防官になって社会に貢献したいと考えていた自分自身の強い意思です。今、思い返してもこの道を選んだことに後悔はありません。非常にやりがいのある職業に就けたことを誇りに思います。皆さんにも一度きりの楽しい学校生活を思い切り満喫し、そして最後には自分の意思でその先の道を切り開いて欲しいです。もっと自分の力を信じて、そしてもっともっと周りを頼ってください。かけがえのない家族や先生、そして仲間たちがたくさんいるはずですよ。

皆さんの夢が花開くことを心から願っています。つたない文章でしたが最後まで読んで頂き、ありがとうございました。



バレー部の仲間と